

大草谷津田生きものの里自然観察会

2月「冬越しの虫を探そう」

太田慶子（千葉市）

日 時：09年2月1日（日）10：30～12：15

参加者：12名（大人9名 子供3名） 天候：晴（北風強し）

担当指導員：太田慶子・和仁道大

3日続いた雨の後の晴天です。北風が強かったのですが、大草は北が雑木林になっており、歩くコースは冬の観察でも寒いということはありませんでした。

最初に、「生き物にとって水分は大切で、乾燥する日本の冬には、湿り気のあるところで冬を越す必要があります（例えば、地面に転がっている丸太の下など…。）また、人間でも寒暖の差があると堪えるように、虫たちもできるだけ温度差の少ないところを選んで冬越しをしています。」と説明して始めました。

入り口のスダジイの葉裏にウラギンシジミが越冬しているのを見つけておいたので、まずこれを探してもらいました。白い翅を閉じて葉裏にじっと止まっているのですが、なかなか見つかりにくい位置にいます。そこは直射日光は当らないのですが、暖かく、寒い北風からは完全にシャットアウトされており、この場所を選んで止まっているチョウに、参加者の皆さんも脱帽でした。

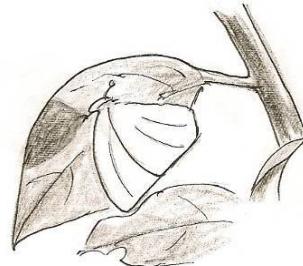
12月の調査の時に、エノキの木の根元にオオムラサキとゴマダラチョウの幼虫を見つけました。この日も朝の下見でオオムラサキの幼虫2匹を確認したのですが、実際に参加者に見せることは控えました。

今冬はアカガエルの産卵が早く、既にたくさん卵塊が見られました。参加者の関心は高く、子どもらは実際に畦に下りて卵塊を触り、ふよふよしている？かな…って。「谷津田の畦を歩くという初めての体験を子ども等が出来た」と、お母さんが後の感想の時に喜んでいました。

陽だまりのモリチャバネゴキブリの幼虫（家の中にいるゴキブリとは違うんですね…とお父さん）を見てから台地の方へ。10月に巻いておいた菰（こも：秋に虫が暖かい地面などに下りる前に菰を巻いておいて、虫の動きが活発になる前に取り外して菰ごと焼くことで虫を退治すると説明）を2本の木から取って、ワラにどんな虫たちがいるか見ました。クモはたくさんいましたが、昆虫は少なく、ヤスデやカタツムリなどが少し見られた程度で、参加者も意外と少なかったという感想でした。

カブトムシの幼虫がいるところに案内しましたが、土を掘ってもなかなか見つからず、雨の後は下の方まで潜り込んでいるようでした。子ども達が頑張って3匹ほど見つけると、その大きさにびっくりでした。糞もたくさんあり、これがカブトムシの糞？…ふ～ん？

冬の林にも虫がいっぱいいるんですね、季節を変えてきてみたいなど、参加者の感想でした。



スダジイの葉裏のウラギンシジミ